

第13回県政知事懇談

湯崎英彦の宝さがし

テーマ【挑戦そして実現！引き出せ広島県の「底力」】

と き 平成22年9月4日（土）
と ころ 沖美ふれあいセンター 1Fホール

広 島 県

目 次 頁

開 会	1
懇 談	2
自由討論	34
閉 会	44

開 会

(知事 (湯崎))

皆様、こんにちは。ただいまから県政知事懇談を始めたいと思います。

本日は、まず、この懇談会にメンバーとして御参加いただきました、10 人の皆さん、土曜日にもかかわらず、こうやってお時間をいただきまして、本当にありがとうございます。また傍聴の皆様も、お休みの方が多いと思いますけれども、わざわざお集まりいただきまして本当にありがとうございます。これから少し長い時間になりますけれども、お付き合いのほど、お願いいたします。

始める前に、若干この懇談会の目的を御説明させていただきたいと思います。

この懇談会は、私が各市あるいは町の住民の皆様と直接お話をさせていただいて、それぞれの地域でいろいろお考えになっていることをお聞きしていくというものです。何か具体的な課題について解決していきましょうとか、具体的なアクションをとるといってもないわけではないのですが、むしろ、いろいろな考え方や見方というのを皆さんお持ちですので、それをずっと集めていくと県政の基礎のようなものができていくと思っております。よく例えで、これは味噌樽のようなものですよと言っているのですが、ずっと味噌をためていくと、しばらくたつと発酵してすごくおいしいお味噌ができるのですが、皆様の声というか、御意見というか、お考えといったものもいろいろためていくと、県政をやっていく上での非常にいい味噌ができるのではないかと考えております。

実はもう一つ、市長あるいは町長とお話をさせていただくという会をやらせていただいております、それについては行政としての課題であるとか見方というのをいただいて、それもまた味噌樽に置いておくような形でやっているのですが、この二つの味噌樽で、いい県政をつくっていく材料にしていきたいと思っております。

そういう意味では、日ごろお感じになっていることを率直におっしゃっていただくのがいいと思っておりますし、是非そうしていただければと思います。

今日は行政の方々もいらっしゃっていますけれども、遠慮なくおっしゃっていただいて、市のことや県のことも何でも結構です。あるいは、そのことを意識する必要もありませんので、日ごろのことをおっしゃっていただければと思っております。

進行については、これから 90 分ほどかけてお一人お一人のお話をお伺いして、3 時半ぐらいから 30 分、皆様一緒に全員で意見交換をさせていただくという感じで進めていきたいと思っております。

冒頭申し上げましたけれども、少し長くなりますので、なにとぞよろしく申し上げます。途中お飲みものなども自由にお飲みいただいて結構です。私も飲みますので、よろしくお願

いたします。それでは早速始めさせていただきます。

懇 談

(知 事)

それでは、まず清水さんからお願いいたします。どうぞお掛けになって。

(清 水)

こんにちは。皆さん、どうも。今日は、知事におかれましては江田島へおいでくださいまして、ありがとうございます。非常にうれしく思っております。

私は「田舎暮らしを楽しもう会」の会長及びNPO法人ブリコラージュ江田島の理事をやっております。私たちの活動の基本は定住促進です。私自身も移住者でございまして、こちらに移住してきたときに本当に情報がなかったので非常に苦労しました。それで仲間を集めている情報交換しようということをきっかけに、会を発足させまして今5年になります。

テレビ、新聞等でちょこちょこ紹介していただいているのですが、その中でいろいろなところから来られたのですが、江田島と言えば術科学校ということしか知られておらず、沖美町といたら一体どこだというような状況でございました。ほかの江田島のよさがあまり伝わっていなかったのです。広島市内でも江田島といえば術科学校ということで、沖美町といたらどこにあるんだというような状況でした。

風光明媚な、私自身は江田島で死ぬ気で、非常にいいところだと思って住んでいるのですけれども、まず、この自然の美を宣伝したい。それを皆さんに見に来ていただきたいという思いでいっぱいです。

今、全国からいろいろな方が、移住希望者が来られておりますけれども、江田島の本当にいい風景を一目瞭然で分かるような地がないかということと、情報発信の基地がほしいということで、「^{ゆめきらい}夢来」と称しておりますけれども、市の土地をお借りしまして、自力で開発いたしました。そこを一つは交流ゾーンということと、江田島の風向の、非常にすばらしい夕日も見られる、そういう地にしたいということで、1年半かけて手づくりしてきたのです。それをスタート台にして、今から江田島のよさをもう一回再発見、再発掘して、もっともっと活性化につなげていきたいと思っております。

江田島というのは非常に都市圏に近いところでございますので、地の利は非常によろしゅうございます。それを生かして、歴史的な部分、文化的な部分を掘り起こしながら、もっと頑張っているいろいろな人に来ていただきたい。そういう思いで今、頑張っております。

今後、県のほうにも市のほうにも望みたいことは、やはり県とこの田舎の協働という部分で、具体的にその協働の部分を出していただけると、もっと方向性ははっきりするのではないかという考えでおります。

(知 事)

それをもうちょっと具体的に言うと、どのようなイメージですか。

(清 水)

まず、江田島がどういう方向に行こうとしているのかということを確認にしていきたいのと、県が江田島市に対してどういう思いで、どういう生き方をしていくのがいいんじゃないかとか、そういう思いを聞かせていただきたいというのが私の率直な感じですよ。

だから、私たちは民間の立場でできることを、自分たちの自由な考えの中で活性化につなげていけたらいいなということでやっていきたいと思うのですが、やはり民間の力ではどうにもならない部分がございますので、その辺もちょっと相談に乗っていただきながらその方向性を決めていきたいと、こういう思いでございます。以上です。

(知 事)

ありがとうございます。もともと江田島にいらっしゃったわけではなくて、移住をされたということなのですけども、瀬戸内海にはいろいろな島もありますし、あるいは島でなくても沿岸でもいろいろ場所はあると思うんですけども、どうして江田島を選ばれたのですか。

(清 水)

私はいわゆる働いて働いてという時代を経てきているのですが、本当は静かにゆったり空気のいいところで健康的に暮らしたいという思いがありまして、全国各地を回り、結局、江田島に移住してきました。やはり都会から田舎に移住する際、三つも四つも山を超えた中ということではないので、割とすんなり入りやすかったのではないかと思います。

(知 事)

なるほど。都会からも近いということよ。

(清 水)

ええ。非常に近いということと、入りやすいという部分が大きな魅力だったように思いますね。それと、非常に海がきれいです。瀬戸内海のよさが満喫できる、凝縮されている。そんな感じがしております。

(知 事)

そうですね。江田島と広島はそんなに離れているわけではないと思うのですが、広島側の海と、ここまで渡った海は全然違いますね。

私も今日ずっと自転車で回ってきましたけれども、海の色が翡翠色なのですね。緑色といいですか、独特な瀬戸内の色で、すごくきれいだなと改めて思ったのです。この江田島とか能美ではそれが本当によく分かりますね。

(清 水)

そうですね。

(知 事)

江田島に対してどうなってほしいかというお話がさっきあったのですが、せっかくの機会なので申し上げさせていただくと、私は、県としてこうなってほしい、ああなってほしいということではなくて、地元の方々が活力をもって、元気になっていただければ、それはどんな方法でもいいのではないかと思います。それを今、県内全体で進めようとしていて、どうやったら元気になるかという、地元が持っている強いもの、自慢できるものとかをベースに、それを発展させていくという事が近道なのではないかと思っています。そういう強みを見つけて、それを頑張って広げていく。そういったことを私は期待したいと。それについては一緒に汗をかいていきたいと思っています。是非よろしくお願いします。

さっき私も夢来来に行かせていただいて、ちょうど突き出たところで、両方に湾があって、目の前は宮島で、これは夕日が本当きれいだろうなと思いましたね。

(清 水)

すばらしいところです。

(知 事)

いや、すばらしいところを見つけられて、地元の宝を磨いていただいているということで、本当にありがとうございます。

(清 水)

ありがとうございます。

(知 事)

ありがとうございました。

それでは、空久保さん、お願いいたします。

(空久保)

沖美町の空久保といいます。よろしくお願いいいたします。

私は沖美ベジタという会社で、イチゴのハウス栽培をしております。もともとは建設会社だったのですけれども、異業種参入ということで、平成14年に会社を設立しました。ちょうどそのころ公共工事の大幅な削減等があつて、雇用の確保のためと、沖美町というのは温暖でとても日照時間が長く、いいところなので、その地域の特性を生かした農業という仕事に興味を持ったためです。

最初は、1,000坪、1棟のハウスだったのですけれども、現在は3棟で2,600坪のハウスがあります。

この島でできるイチゴは、12月から大体7月の初めぐらいまでしかできないので、1年中イチゴの供給ができるようにと、昨年度、東城のほうに支店を出しました。

(知 事)

東城ですか。

(空久保)

庄原市東城町に。1年中イチゴの供給ができるようになりました。

あと、試験的になのですけれども、マンゴーも栽培しています。

(知 事)

今日ありましたね。

(空久保)

そこにもちょっと置かせてもらったのですけれども。

(知 事)

江田島でつくられているのは、沖美ベジタさんだけなのですか。

(空久保)

だと思ふのですけれども。

(知 事)

今日、ふるさと市場に置いてありましたね。

(空久保)

私が置かせてもらいました。この島でもマンゴーができますので、いろいろな特産品が広島県にもありますけれども、その特産品の中にイチゴも、マンゴーも、広島県としてPRしていただければと思います。

(知 事)

そうですね。

(空久保)

あと、観光としてイチゴ狩りをやっています。イチゴ狩りは今年で6年目だったのですけれども、お客様がお客様を呼んでくれて、宣伝費をかけていないのですけれども、大体その3ヵ月で4,000人を超えるお客様にお越しいただいています。

(知 事)

4,000人ですか。

(空久保)

はい。イチゴというのは、スーパーで売られているものや、ケーキに乗ったものを食べることが多いと思うのですけれども、自分の手でつみ取って食べるという体験をもっと身近にしてみたいと思って始めました。

(知 事)

おいしいですね。ぷちっと、とってね。

(空久保)

そうですね。とるのが楽しいみたいです。

知事さんも忙しいと思いますが、来年は是非お越しください。

(知 事)

ありがとうございます。子どもがイチゴ大好きなもので。

(空久保)

そうですね。お待ちしておりますので。

(知 事)

ありがとうございます。

今、そのイチゴのハウス栽培を東城でも展開をされている。

(空久保)

はい。そうです。

(知 事)

それはだんだん軌道に乗ってきたということですか。

(空久保)

まだ、去年の夏に東城支店を出して、2年目なので、まだまだ今からなのですけれども、とりあえず1年中供給できるようにはなっています。

(知 事)

なるほどね。主に広島で消費されるのですか。

(空久保)

そうですね。広島、あとは神戸などにも出荷しております。

(知 事)

沖美ベジタのイチゴの自慢を一つしていただくと、どこが自慢ですか。

(空久保)

やっぱり日照時間が長い分、よく日が当たっていますので、色もつやも違うと思います。スーパーに來ている九州のイチゴというのは、どうしても輸送に時間がかかりますので、よく熟れているときよりもちょっと早めに収穫しているのです。ですがうちのイチゴは完熟まではいかないですけれども食べ頃の状態で出荷しています。

(知 事)

つみたてに近い形でね。なるほど。ありがとうございます。

今、地産地消というのをやっていますけれども、広島市場も大きいですから、是非近いところでおいしいものが、しかも、そういうふうになるべく完熟に近いというのは栄養価も高いですから、健康にいいということですよ。それは是非進めていただくと、広島県全体が健康になっていいのではないかと思います。

(空久保)

ありがとうございます。

(知 事)

実は今日もう 1 件、グリーンファームさんにもお邪魔しました。そこはトマトの栽培をやっておられて、やっぱり同じことをおっしゃっていて、栄養価が高いものが完熟に近い形でとれて、それがすぐ出荷され、消費者に届くのでそういう意味ではすごくいいですというお話をされてきました。やっぱり近いところにある地の利のよさというのが、直接健康につながっていくような感じがしていいですね。

頑張っていらっしゃるということで、ありがとうございます。建設業からの新規参入ということで、大きな課題ですので、是非頑張ってくださいと思います。

(空久保)

はい。ありがとうございました。

(知 事)

ありがとうございます。

それでは、田中さん、お願いいたします。

(田中 (鉄))

こんにちは。江田島町から来ました田中といいます。1 ターンでこの江田島に移住してきました。来月でちょうど 1 年になります。出身は兵庫県姫路市、2 年ほど前までは 4 年間北海道で酪農と和牛の生産肥育の仕事をして、今はこの江田島町に住んでおります。

現在、大須の方で 3 月から春キュウリを生産してしまして、ちょうどこの 9 月から秋のキュウリ栽培で、もう 1 週間ほどしたら始まります。まるっきりこの広島に知り合いもいませんし、以前は農業といっても牛、酪農だったので、農業もまるっきり初めてで、よくやるなど言われます。たまたまホームページで江田島のお試し暮らしというページを見つけまして、市役所に連絡をとって、10 日間ほど江田島でお試し暮らしまして、そのときに清水さんを紹介していただいて、今でもお付き合いを続けてもらっています。兄貴代わりでいろいろ相談に乗っていただいています。

(知 事)

では、移住者仲間です。最初からお付き合いがあったわけですね。

(田中(鉄))

そうですね。市のほうに新規就農で何とか支援ができないものですかと、いろいろ話もしたのですけれども、前例がないと、予算がないと言われてしまいました。今、大須でも31~32の農家しかつくっていないのです。40代は僕1人です。下は若いのが30代が2人、あとはみんな50~80歳です。10年後、20年後となると、僕に続いてくれるような人が、清水さんを通して江田島へ移住して、キュウリをつくりたいという人が1人でも2人でも出てきてくれたらと思って、頑張っていれば一つの前例になるかなと。

(知事)

そうですね。しかもIターンですからね。

(田中(鉄))

何か広島県で新規就農者の支援はしていないのですか。

(知事)

新規就農者の支援というのは、認定就農者という、この認定というのがまたいろいろ複雑なのですけれども、一定の要件を満たす人に対しては、機械や設備を導入するときに最初に大きなお金があるので、低利融資をするという制度があります。あとはいろいろな形で、主にやっているのはいわゆる集落法人への就農など、そういうものを支援しています。

田中さんは個人で始められたという形ですか。

(田中(鉄))

そうです。

(知事)

個人だと、すごく大変ですよ。いきなり始めると、土地の確保から機械も自分でそろえたりしないとイケなかったり。

(田中(鉄))

いま現在は、畑は以前やられていた方が体を悪くされて、山になるだけだからというのでそのまま丸借りしてやっているのです。最初の設備投資のお金はかかっていません。

(知事)

設備もそのままあったのを引き継いで。

(田中 (鉄))

はい。

(知 事)

それはキュウリ用のハウスもあったのですか。

(田中 (鉄))

そうです。3 ヶ月ぐらい前までやられていたところで。

(知 事)

では、あまり間もあけずにね。

(田中 (鉄))

はい。だから、まだ消耗品だけで何とかなっています。一からだったら、とてもではないけれどもできないですね。

(知 事)

そうですね。農業の経験のない方が突然農業を始められるというのは、比較的稀なケースだと思うのですが、営農に関する知識だとか、設備なり土地なりの初期投資の大きさから言うと、なかなか難しいですよ。ですから、1 回そういう法人の中に就職をして、いろいろなことを勉強していただいて、独立していくというような、そういうのがたくさんの農家をつくっていくには必要なプロセスかなというふうには思っているのですが、ある意味、田中さんはそういう幸運があって始められたということですね。

(田中 (鉄))

そうですね。

(知 事)

清水さんと同じなのですが、江田島にしようと思われたのは、どこが決め手だったのですか。

(田中 (鉄))

やっぱり自然環境です。子どもがまだ小さいもので、お試しで来ている間中、子どもとずっと遊んでいて、帰りたくない。

(知 事)

お子さんが。

(田中 (鉄))

そうです。海に近いし、毎日でも行けるし、だったら、ここで腹をくくろうと思いました。以前サラリーマンをやっていたときは、親父は会社に行って帰ってくるけれども、会社で何をやっているかというのが子どもには分からない。

(知 事)

分からないですね。

(田中 (鉄))

だから、親父はこうやって汗を流して働いて、それでこうやってご飯を食べているというのを見せたいという思いもあって、家族で相談して、だから、嫁さんの協力もすごくあったので、思い切って行こうかということ。

(知 事)

奥様も広島に御縁があるわけではない。

(田中 (鉄))

全くないです。同郷です。だから、北海道に行くときも、親もみんな反対だったのだけれども、嫁さんと2人で、だから、子どもは北海道生まれです。

(知 事)

広島も、今、人口の社会減、要するに、引っ越して出て行ってしまう人が入ってくる人より多くて、大きな課題なのですけれども、たくさん貢献していただいて。御家族は、お子さんは何人ですか。

(田中 (鉄))

2人です。

(知 事)

じゃあ4人も来ていただいて、ありがとうございます。是非江田島を大切にしてください、これからもお子様が江田島っ子になるように、是非お願いいたします。

(田中 (鉄))

はい。

(知 事)

どうもありがとうございます。

では、滝田さん、お願いいたします。

(滝 田)

滝田と申します。江田島市観光協会の事務局長をやっています。よろしく申し上げます。

私は今年の4月に江田島に来たばかりですので、まだ、江田島の島民になって4ヵ月、5ヵ月といったところでございますけれども、妻がこちらの出身でございましたので、女房に引きずられてきたようなものです。観光協会の事務局長に全国公募で来たわけですが、来て、何をもちて観光を振興しようかと考えたときに、私自身もサイクリストでありますし、それから、広島のほうから自転車で江田島を訪れる方が非常に多いということは何年か前から気付いていましたので、それならばサイクルアイランド江田島というプロジェクトを立ち上げてやってみようと思って、今、活動しているところです。

広島県東部の尾道ですけれども、そういうところに比べると、西部地区というのは自転車のイベントが少なく、その割には自転車人口が多い。こういったところは全国的にも珍しいほうなので、なんで広島でないのだろうと前々から思っていたのですが、誰もしないなら私がやりますと始めたのがきっかけです。

おかげさまで、ブログとかネットとかでいろいろな仲間が集まってきて、今、土日であれば、1日当たり40台ぐらいは島の中を自転車の方が訪れているという形になっています。

そういう形で江田島が自転車で盛り上がってくれば非常にうれしいと思っておりますけれども、将来的には江田島のみならず、広島市、呉市、しまなみも含めて、四国側の今治とか松山、山口の岩国圏、それぐらいまでエリアを広げて、大きなサイクリングの圏ができればいいなという夢を持っております。そういった形で活動できればいいなと思いつつ、今、一生懸命頑張っているのですが、何分エリアが広いですので、連携をとるだけでも大変でございます。

そんなことでサイクルアイランド江田島というプロジェクトを一生懸命推進しているということです。

(知 事)

ありがとうございます。今日は、私が皆様にあまり御説明していなくて申し訳なかったので、すけれども、朝、ふるさと市に行きました。ふるさと市の場所はどこでしたかね。

(滝 田)

大君ですね。

(知 事)

大君からずっとサンビーチまで自転車で回しまして、私は道も分からないものですから、滝田さんに先導いただきまして走ってきたのです。18 kmほどですか。江田島のいいところは、車道を走るわけですが、車が頻繁に来るわけではないので、サイクリストにとってはすごく走りやすいですね。海を横にずっと見ながら走るの、風も気持ちいいし、海もきれいだし、夕日があったらなお最高かなという感じもしましたが、そういう意味でサイクリングにはすごくいいところだなというのは改めて感じました。

(滝 田)

そうですね。広島市とか呉市を走ったことがあるとは思いますが、そこは人口も多いし、車も多いし、非常に走りにくい。それに比べると、フェリーを使うというところはありますけれども、江田島というところは非常に走りやすいということで、サイクリストの方が来られるには、非常に立地条件がいいと思っています。

(知 事)

そうですね。サイクリングツアーで大変なのは、行ったところに戻らなければいけないということですね。一本道だと、ずっと行って、また同じ道に戻ってこなければいけないのが大変なのですが、島の場合だと、ちょうどぐるっと回ると、ずっと違う景色でまた元に戻れるという、これもいいところですね。

(滝 田)

それが、しまなみを走った方から江田島がいいと聞かれたところというのがそこなのです。しまなみ海道というのは、行ったきりなのです。どうしても橋だから一本道なので仕方ないのですが、行って、向こう側で疲れて帰る手段がなかなかないと。ところが、島というのは周遊できるので、そこが非常に便利なところだと。なおかつ、もし疲れたときにバスにラックを付けて自転車で乗れたらいいと思います。

(知 事)

神奈川県とかがやっているような例ですね。

(滝 田)

そういうようなシステムがあれば、また非常に便利なんだけど言われたこともあります。

(知 事)

そうですね。外国などだと、バスに乗せるというのはよくありますよね。

それは御提案されたりはしていないのですか。

(滝 田)

正式な提案はしていませんが、ちょこちょこいろいろなところで話しているのですけれども。

(知 事)

一つサイクリングを観光の目玉というか材料にしていくとしたら、それはあるかもしれないですね。今日は実際に走らせていただいて、すごくいいなと。

さっき私は車が少ないのと申し上げたのですけれども、例えば県北などでもそうなのですが、県北では雪が降って、雪があるので嫌だというのが一時あったと思うのです。雪があるから不利だという考えがあったのですけれども、今は逆に、雪があるから、雪で人を呼べるという、だんだん変わってきているところがあります。今度、雪室をつくってみようとか、そんな話や、雪合戦をスポーツにして人に来てもらおうとか、いろいろあるのです。車が少ないというのも、従来の価値観的というと寂しくて残念というふうに思うかもしれないけれども、逆に、こういうサイクリストなどにとっては天国のようなところだということで、そういう一見弱いと認識しそうなものをいかに強みに変えるかというのはすごく大事な視点ですね。

(滝 田)

そのとおりだと思います。確かに車が少ないと言われると、寂れているというイメージが出てくるかもしれませんが、それが今は逆に受けているというところもありますので、こういうのを逆に強みにして生かしていければと思います。

(知 事)

あとは、サイクリストがお金を落としていく仕組みをつくっていくと、観光協会事務局長としては。

(滝 田)

はい。仕事柄、そういった調査もしたことがあるのですが、意外にサイクリストの方は大食いが多くて、結構あちこちで落として行かれます。私も何回も付いて走っているのですけれど

も、毎回財布の中をしっかりと用意しておかないと追いつかないぐらいです。「また次の店に行くのですか」という感じですからね。

(知 事)

カロリーを使いますからね。

(滝 田)

ええ。相当カロリーを使うから、かなり食べる方が多いですね。

(知 事)

是非頑張ってください、あと広域で是非連携をしながらやらせてもらえれば、県も、今は申し訳ないのですけれどもしまなみ海道を中心にサイクリングを組み立てて、海外のお客さんに来てもらおうというのを一生懸命やろうとしていますので、それが立ち上げて、必ず横にも展開していこうと思っておりますので、是非連携を。最初からももちろん連携をしていこうと思っておりますけれども、よろしくお願いします。

(滝 田)

ありがとうございます。

(知 事)

それでは、田中さん、お願いいたします。

(田中(正))

お願いいたします。能美町鹿川から参りました農業、花を作っております田中です。

鹿川では昭和6年ぐらいから花を栽培しております。最初、暖かいということで、年中花があるので、広島から来られた人が作ってくれないかということで始まった産地でございます。

取組なのですけれども、業界といたしまして、2月にある花の祭典を業界みんなで、消費宣伝のために行っております。県知事の奥さんにはテープカットに来ていただいております。

(知 事)

市内のデパートであったものですか。

(田中(正))

そうです。

(知 事)

お世話になりました、ありがとうございます。

(田中 (正))

その中で、同時開催の品評会がありまして、農林水産大臣賞がトップの賞なのですが、全国の生産者協会を抜けたら農林水産大臣賞がもらえないのではないかという話があります。生産者協会という団体には年会費が要るのです。それを払っていたのですが、組合員も減ってきましたし、一時は1,200ぐらいおったのですが今は160~170、負担が大きいので、いろいろ手を打ったのですが、それは脱会ということになりました。ただ、大臣賞がもらえないのではないかという話もありますので、この話をちょっと正確にというか、どういうふうになるのか県から聞いていただきたいというのが一つ業界からです。

それと、今、取り組んでいるもう一つは花育です。命の大切さというのです。今、会議をしているのですが、来年のフラワーフェスティバルのために小学校の子どもさんたちに種から花をつくってもらおうということです。種からつくるのは大変なのだけれども、学校の先生とか子どもには難しいというので、生産者に協力してもらえないかということで、今、さっきの園芸組合の8の団体で話を進めているところです。以上です。

(知 事)

ありがとうございます。今は、来年のフラワーフェスティバルに向けて、子どもたちが種から育てて、5月ぐらいに花が咲くと。それを使ってイベントをします。そういうことですか。

(田中 (正))

市民参加型で今年は広島市の小学校の全部に声かけをして、やるという学校には全部です。種をまいてすぐ生えるというのではなく、いろいろな勉強をしなければいけないのですけれども。

(知 事)

なるほどね。逆にいうと、それだけ手間もかかるので、花育という観点からはいいことですね。命の大事さ、そういうイメージで。

(田中 (正))

はい。そうです。

(知 事)

江田島は、今でも比較のお花は多く生産されているところなのですよ。

(田中(正))

広島県内では多いほうですね。

(知事)

主な消費地は広島市とか。

(田中(正))

ほとんど広島市です。

(知事)

私が一回驚いたのは、バラなども、福山はバラのまちと宣伝されているのですけれども、福山のバラ生産者は少なくて、ほとんどこちらのほうで栽培されているというのを聞いたのですけれども。

(田中(正))

そうですね。

(知事)

花の種類はいろいろ、バラエティーがあるのですか。

(田中(正))

うちですか。

(知事)

はい。あるいは、江田島で。

(田中(正))

産地が古いだけあって、多種多様、知事さんが知っている花は全部あるのではないですか。

(知事)

そうですね。私は3種類ぐらいしか知らないのですけれども。この江田島の気候に適しているところがあるのでしょうか。

(田中(正))

気候もですし、土地が狭いということにより、集約型農業、坪単価が上がる農業、手をかける農業というのが進んだのではないかと思いますね。

(知事)

田んぼがなかなか作りにくいのですよね、そういう狭い土地では。水は。

(田中(正))

水は、割と能美町の場合がありますけれども、土地は狭いですね。

(知事)

分かりました。ありがとうございます。

(田中(正))

ありがとうございました。

(知事)

今日は、農業関係者が多いですね。3人いらっしゃって、この後もまだいらっしゃるようで、次は漁業ですか。では、内藤さん、お願いいたします。

(内藤)

旧能美町でカキの養殖をやっております内藤といいます。よろしくお願ひします。

今日も多分自転車で乗っている最中にたくさん海のほうにカキ筏が見えたかと思います。

(知事)

ありましたね。

(内藤)

統計上では、4年前になるのですけれども、そこまでは日本一のカキの産地だったらしいのですけれども、今は2番目になりました。呉が合併に継ぐ合併で、産地を増やしてしまいました。

(知事)

あれはちょっとずるいですかね。

(内 藤)

ずるいですね。実際、江田島市も最初は4町合併することによってなったので何とも言えないのですが、今、日本で2番目のカキの産地ということです。今、農業関係の話がありましたが、僕のほうで漁業の話を少しさせていただきたいと思います。

江田島市の水産物の販売協議会というのが江田島市に合併する前ぐらいから立ち上がりまして、江田島市の水産関係の物を中心に、県内、県外に売っていきこうという活動をしていく団体でありまして、その一応長ということで、今ここでしゃべらせていただいております。

普通にカキをつくって売るということを日々やっているわけですが、カキの消費というのはRのつく月とよく言われます。大体寒くなる11月から一応3月ぐらいまでが生食で食べていただくものの中で、4月、5月に加工食品として食べてもらって、それでシーズンは終わって、6月、7月は次のシーズンに向けての種取りとか、次のシーズンの品物をつくるという作業をやっているのです。それと平行して、広島県の開発した夏ガキを江田島市の特徴、このきれいな海でつくった夏ガキというのを頑張って売っていきこうとしており、今、6年目になります。

夏ガキ自体も、最初は人気は薄かったのですが、少しずつ認知され始めて、ここ1、2年で少しずつ広がっております。実際、今、夏に食べているのは、山陰とか京都の北側とかの岩ガキとなっておりますけれども、広島県の開発されたこのカキ小町は、夏にも産卵をしないので、非常においしい。カキ本来のおいしさを残した形で夏を迎えております。ですから、非常にいい意味での特徴があるものですから、今、売られている岩ガキよりも、もう少しいい競争力を持って今から売っていけるのではないかと、江田島市も取り組んでおります。他の町等も取り組んでおりますけれども、江田島市も負けないように一生懸命やっている最中でありまして。

広島県ではカキ小町と言うのですが、江田島市では「ひとつぶくん」というネームで、ここ1年一生懸命売って行って、地域ブランドにしていこうと努力しております。まだ集計ができていませんが、今年もかなり売上げを上げていると思います。

正直、一次産業はあまりいい感じではないのですが、この夏ガキを通して、もう少し江田島市の水産関係、カキ関係が元気になる手立てにならないかと、これを前面に押し出して頑張っている次第でございます。

(知 事)

ありがとうございます。この「ひとつぶくん」は3倍体というんですね。

(内 藤)

そうです。

(知 事)

最初3倍体と聞いたときには、何のことかさっぱり分からなかったのですけれども、これは、夏に食べたほうがおいしいのですか。

(内 藤)

そうですね。1年中食べられるのは間違いなしなのですが、2倍体のカキでありますと、ピークは大体4月で終わるのです。5月ぐらいになると、産卵の準備が始まります。卵をもつということになって、どうしても6月になると産卵をするのです。卵をもって、だから、カキ本来の油を卵にかえてしまった上に、産卵をしてしまうと、カキの栄養素も一緒に出してしまうのです。それで、2倍体は大体3月で終わりにしましょうとなっております。でも、この「ひとつぶくん」であれば、基本的に食べられない時期であったところを完全に補ってくれる要素があります。その時期、普通のカキが大体栄養素を落として、食しておいしくないという状況になったときにでも、十分においしい味とカキ本来の栄養を持ったまま夏を迎えてくれるので、夏でも食べられます。一年中食べられますけれども、特に夏にお勧めしますとなっております。

(知 事)

ほかのカキが食べられないからということですね。

(内 藤)

そうですね。岩ガキも食べられないことはないのですが、岩ガキも、僕が見る限り、夏には大体子どもをもっているパターンのほうが多いです。やっぱりカキは夏に産卵するようになっております。だから、そのまま流通はしておりますけれども、この「ひとつぶくん」のほうがカキ本来の味が強いと思っております。

(知 事)

そうですね。岩ガキはあまりふっくらとした感じではないですよ。「ひとつぶくん」はびっくりするぐらい大きいですよ。

(内 藤)

今日持ってくればよかったのですが、気が利かなくてどうもすみません。機会あれば食べていただきたいと思います。

(知 事)

もういただいています。もちろん。去年もカキのプロモーションをやりましたので、そのと

きに3倍体という説明もいただいて。

(内 藤)

そうですね。種なしブドウのような感じで、子どもをつくるのを抑制しているのですという説明はするのですけれども、3倍体というと、どうしてもとっかかりは悪いみたいで、イメージ的にあまりよくないのが少しずつとれたのか、いろいろな人が今度は興味を持ってくれますので、今、だんだんおもしろくなってきたと思います。

(知 事)

やっぱりあの大きさが目を引きますしね。今朝もふるさと市場で売っていらっやいましたね。

(内 藤)

そうです。

(知 事)

ちょっと県からの供給が限られているので、それがまだ一つネックかなと思っています。

(内 藤)

これは盛んに増やしていただかないと、せっかく皆さんに認知していただいて、使ってくれる人が増えている環境の中で、これは県のほうに応援していただかないといけないと思っています。

(知 事)

分かりました。ありがとうございました。

それでは、小方さん、お願いいたします。

(小 方)

能美町から参りました江田島市自治会連合会の会長をしております小方でございます。私は行政の出身でございます、行政のOBでございます。

まず初めに、知事さんにお礼を申し上げておきたいと思います。湯崎知事におかれましては、若さをもって、今日のように県内各地を自らの足で訪ね歩かれまして、県民の声を聞かれ、それを県政に反映されるというようにお伺いしております。また先日の新聞等では、新年度の予算編成に当たっては101事業の事業仕分けをされるということも報道されており、これは画期的なことであると思うわけです。若さをもって県政に取り組んでおられるということで、私

どもは非常に期待を申し上げているわけでございます。決してお世辞を申し上げるつもりではございませんが、まさに湯崎知事こそ、広島県の宝であるというように申し上げて過言ではないと思うのです。

(知 事)

ありがとうございます。

(小 方)

今日の10人、皆さんそのように思っていらっしゃるのではないかと。

(知 事)

恐れ入ります。ありがとうございます。

(小 方)

今後ともどうぞよろしく頑張ってくださいと思います。

私は住人代表という立場で本日出席させていただきました。住民みんなが活動しております自治会活動の現状と課題について、少しばかりお話をさせていただきたいと思います。

江田島市には大きく分けまして31の自治会があります。その31の自治会は、旧4町ございますので、それぞれコミュニティーの名称も、あるいは実情、実態、あるいは風習とか、住民感情とか、それぞれ差違があったわけでございます。そうした自治会組織をせめて名称だけでも統一して、同一方向に進むようにしたらどうかということで、江田島市は区長会、大柿町は区民会、能美町は部落長会というような名称を使っていたわけですが、平成20年にそれをすべて自治会と統一したわけでございます。

その31の自治会の下に、小回りの利く小さな単位自治会とか、班とか、代議員会とかいうような制度があるわけございまして、そういう小回りの利く会がそれぞれの地域の環境整備とか、あるいは小地域の社会福祉事業、あるいは小地域の自主防災組織等々のいわゆる昔からの近所付き合いのような活動を行ってきているわけです。1人暮らしのおばあさんが隣に住んでおられて、夜電気がつかない。あるいは、朝起きても、新聞がまだ取り込まれないというようなことも気をつけて見てあげて、お互いに安全を確かめあうというような活動をやっているわけでございます。したがって、江田島市には160歳とか200歳とかになるようなお年寄りも1人もおられません。100歳を超えたお年寄りはおられても、それは実在をしておられますと思うわけでございます。

そういうような活動をしているわけですが、現在の田中市長は江田島市の2代目の市長になるわけございまして、市長の出馬の際の公約の一つに、持続可能な協働のまちづくりというのがあるわけです。市長のそうした公約に我々も沿って、協働のまちづくり事業について

いろいろ取り組んでいるわけですが、それを具現するために、昨年4月に、ソフトの目玉政策として、旧4町にそれぞれ地域活性化支援というので市の職員を配置していただきまして、これは、それぞれの地域の、各種団体のお世話なりお手伝いをしていただいているわけですが、非常に助かっています。

協働のまちづくりにつきましては、市民相互、及び市民と行政とが責任と役割を分担し、女性会、老人クラブ、民生委員、PTAと、その地域内のすべての各種団体をもってまちづくり協議会というのを結成するように取り組んでいるわけですが、今のところ、既に結成をして市の認定を受けている団体は4団体です。その他の団体につきましては、現在、規約の策定や、部会制にするか、あるいはその団体をより集めて事業を進めるような方法をとるか、その手順について検討して、今年度中にはそのまちづくり協議会をすべてつくりあげようとは思っているわけですが。

まちづくり協議会につきましては、清潔で、安全で、安心なまちづくりというのを一つのキーワードにして、そうした組織を作っていきたいと思っておりますし、それができた場合には、有機的に積極的にお互いに連携を図って、江田島市が一つになって住民活動をやっていきたい。もちろんこれは市の下請け機関でもございませぬし、下請け団体でもないわけですが。読んで字のごとし、あくまでも自ら進んで治めていくコミュニティーと思っているわけです。

この中で一つ悩みがあるのは、江田島市も高齢化率が現在のところ35.6%と聞いておりますが、これは江田島市の自衛隊の関係者がカウントされております。

(知 事)

住民票を持っておられる方がね。

(小 方)

その自衛隊の関係者を除きますと、高齢化率が40%近くになるわけですが。

(知 事)

自衛隊の若い方々は、地元でずっと住まれる人ではないということ。

(小 方)

そういうことで、自治会活動、あるいはまちづくり協議会の活動をする上で、後継者がなかなかいないのです。ですから、どうしても一回足を踏み込んだらなかなか足を抜けない状況になっているわけですが。

そうしたことで、できれば、今日はここへ入ってくる際に田中市長から「夢のある話をしなさいよ」と言われたのですが、市役所の職員も、リタイアしたときにはこうしたボランティア活動に積極的に参加していただくように、在職中から教育をしていただきたいというようにも

思っているわけです。私もそうした役場の出身でございます。入るときには多少その抵抗もあったわけでございますが、入って一生懸命やれば、恩返しのもりでやっているのですが、おもしろい面もあります。そこらも汲んでいただいて、後継者をつくっていただくような方策を行政のほうからもバックアップしていただければと思っているわけです。よろしくお願ひします。

(知 事)

市長には多分声が届いていると思いますので、分かりました。ありがとうございます。

ちょうどまさにその自治会の活動の中で、実際、江田島の高齢化が進んでいると思うので、どういった課題を考えていらっしゃるかとこのをお聞きしようと思っていたところなのです。やっぱり後継者の方が少ないというのは大きな、実はこれはどこの自治会でも共通する課題なのですけれどもね。

(小 方)

それと、31の大きく分けた自治会よりもう一つ下の小回りの利く小さい自治会のリーダーについては、輪番制になっているのです。1年したら次というようなことで、なかなか定着した人がいない、したがって、定着した仕事もできないので、会全体の運営に多少の支障が出てきているということもあるわけでございます。そこが一番大きな悩みでございます。

(知 事)

なるほどね。自治会も昔はいろいろな形で相身互いお世話をしあうということで活動が活発だったと思うのですけれども、大体どの地域もだんだんと、皆さん比較的地域のかかわり合いが徐々に薄くなっているという面があるのですかね。

(小 方)

そうですね。その地域のかかわりが薄くなっている部分については、All Togetherで、全団体が加入するまちづくり協議会のほうでカバーして、全部がそれに参加するような形をとっていきたいと思っているわけです。笑い話ではございませんが、老人クラブが高齢化している、高齢化が進んでいるという話もございます。

(知 事)

もともと高齢の方の集まりなのだけれども、それがさらに高齢化していると。

(小 方)

なかなかその後継者がいないような状態です。

(知 事)

活動が活発になっていく中で、この活動を続けていかなければいけないという方が増えていきなり、出てくるのを期待したいところではありますけれども、おっしゃるように、これは江田島だけというよりは、本当にだんだんと県内全体、あるいは日本全体で大きな課題になっていることだと思っています。この地域の絆ということや、先ほどおっしゃったようなお互い、近隣同士で見守り合うということも、これからますます大事になってくると思いますので、是非いろいろお力を発揮してください。

(小 方)

分かりました。安心したまちづくりを心がけて頑張りたいと思います。よろしくお願ひします。

(知 事)

ありがとうございます。

それでは、木村さん、お願ひします。

(木 村)

江田島町小用から来ました広島県立呉商業高等学校 1 年の木村です。よろしくお願ひします。

私が習っている囲碁は、なかなかみんな知らないのですけれども、囲碁って何と聞かれることが多いので、私はいろいろな人に囲碁を知ってもらいたいと思っています。

囲碁の歴史では、能美の方なのですけれども、瀬越憲作という立派なプロ棋士の人が歴史上にいるので、そのこともだんだんと広めていきたいと思っています。

短いのですけれども、それぐらいです。

(知 事)

いいですよ。囲碁が好きなのですね。

(木 村)

はい。

(知 事)

これは何がきっかけだったのですか。

(木 村)

保育所のおきですけれども、ボランティアで先生が囲碁を教えに来てくれて、それからだんだん囲碁が好きになりました。江能支部という支部があり、そこの先生方にも教えていただいて、今、ここまで来ています。

(知 事)

そうなのですか。保育所のおきから。では、囲碁歴は十何年。

(木 村)

10年になります。

(知 事)

でも、囲碁は小さい子には難しくないですか。

(木 村)

逆に、小さいおきのほうが頭に入りやすいので、高校生ぐらいになってやるよりは、保育所とか、小さい時に始めていた方が、段も取りやすいのではないかと。

(知 事)

なるほどね。そのおきにきつと囲碁脳みたいなものがつくられて、囲碁脳がないとなかなか発達しないということなのですかね。今は、全国高校囲碁選手権にも出られる。

(木 村)

はい。出してもらいました。

(知 事)

今年のおきにね。

(木 村)

はい。

(知 事)

全国大会に出てみてどうでしたか。

(木 村)

やっぱり私以上に強い人もいるので、なかなか上には上がれなかったのですが、全国ということで、47都道府県の人々が来て、いろいろな囲碁が打てたのでよかったです。

(知 事)

広島県からは何人行ったのですか。

(木 村)

優勝者なので1人しか選ばれないので。

(知 事)

1人。ということは、広島県で優勝した。

(木 村)

はい。

(知 事)

囲碁は男女別競技なのですか。

(木 村)

男女別での優勝者のみが行けるので。

(知 事)

では、男子1人と女子1人。

(木 村)

女子は人数が少ないので1人だけなのですが、男子は人数が多いので二つのブロックに分かれて、優勝者を2人出してあります。女子のほうはやっぱり人数が少ないので、ちょっと厳しいですね。

(知 事)

でも、広島県で一番になるというのはすごいですね。うれしかったですか。

(木 村)

うれしかったです。でも、ぎりぎり勝ったので、もっと頑張っていきたいなと思っています。

(知 事)

今、若い皆さんの間での囲碁人口というのはどうなのですか。どれぐらいですか。

(木 村)

やっぱり年々減ってきています。囲碁をもう一回復興させていきたいと思っています。

(知 事)

強い思いがあると、きっとできると思うので、頑張ってください。

(木 村)

はい。

(知 事)

何でも一番になるというのはすごいですよね。おめでとうございます。

(木 村)

ありがとうございます。

(知 事)

ちなみに、これは高校生がこの会に参加してくれた時、皆さんに聞いている事です。皆さんそれぞれにお答えがあるので、素直に答えていただきたいのですけれども、高校を卒業したら、大人になったら、広島県に住みたいと思いますか。

(木 村)

まだ進路とかのことははっきり決めていないのですけれども、やっぱり広島で大学進学か就職できたらいいなと思っています。

(知 事)

では、広島県に住みたい。

(木 村)

はい。

(知 事)

ありがとうございます。広島で過ごしたいというのはどうしてですか。

(木 村)

やっぱりこの江田島市も好きだし、みんなも、同級生とかも仲いいので、ここで過ごしたいなと思います。

(知 事)

ありがとうございます。高校生で、何人ぐらい聞いたかな。10人ぐらいかな。実は広島にいたいとはっきり言ったのは3人目ですよ。すごく我々にとってはありがたいので、木村さんにとってもいい広島県になるように頑張りますから、よろしくお願いします。ありがとうございました。

(木 村)

ありがとうございました。

(知 事)

それでは、熊倉さん、お願いいたします。

(熊 倉)

江田島市女性会連合会の熊倉でございます。大柿町から参りました。今日、知事さんがふるさと市場に視察に行かれました、そこが地元でございます。

市内に15の支部がございまして、会員は現在1,850人ほどおります。私たちは温かい心の通い合う安心して暮らせる社会を活動目標に挙げておりまして、7月に市内の保育園、幼稚園、小学校、中学校、高校、26カ所あるのですが、学校を訪問しまして、江田島っ子と心を結ぶ声のかけあい運動の提唱をしております。保育園は保育園の子どもたちに分かるように話をしております。

(知 事)

その学校に行って、この運動について説明をされている。

(熊 倉)

はい。メッセージの伝達を行います。毎年7月にしております。45人がそれぞれ分担しまして回ります。

あと、活動としまして、地域の女性会として、行事に参加し、協力活動など、先ほど小方自

治会長が言われましたようなまちづくりの一員として活動もしております。

また環境問題にも取り組んでおりまして、ごみの減量化、そして有用微生物を使いまして生活排水の浄化。

(知 事)

今日ふるさと市場にありましたね。

(熊 倉)

はい。お店を出していると思うのですが、海や川をきれいにしようということで活動しております。

少しずつですが、川がきれいになった、臭いもなくなった、今までいなかったサザエとかアワビがとれるようになったという話も聞きます。こつこつと地道ではあるのですが、少しずつ市民の皆さんに広げていきたい。女性ならではのということだと思っておりますので、進めたいと思います。

これからの女性会の課題としましては、小方自治会長が言われましたように、任意団体ですので、会員の高齢化に伴い、年々会員数が減少しております。そして、30代、40代、50代前半の若い方が全くおりませんので、女性会の活動のPRとか魅力ある女性会、そういうのを広めていきまして、後継者を育てていかないといけないと感じております。

女性が明るく元気になれば、地域も元気になり、江田島市も元気で活性化すると思っておりますので、いつも会合のときには言っているのですが、皆さん、笑って、元気でおりましようということをお願いしております。以上です。

(知 事)

ありがとうございます。おっしゃるとおり、男は単純ですからね。

(熊 倉)

そんなことはないと思うのですが。

(知 事)

私も家で、妻が元気だったら私もにっこりですけども、ふさいでいたら、しょぼんとしてしまって、そういうものですよ。

あと、海というのは特に江田島の大きな財産ですから、海をきれいにするというのは非常に大事なことですよね。

(熊 倉)

はい。島ですから、家から海へ流れるまで長くても2 kmぐらいしか距離はないということなのでですね。ですから、この有用微生物を使つての環境に取り組むというのは、本当にやりやすいということでやっているのですけれども、有用微生物は、米のとぎ汁でつくるものですから、なかなか皆さんに広まらないという問題もあります。しかしやっている方は皆さん一生懸命で、さっき言いましたようにアワビとかサザエがとれるということで、私たちもいずれはアワビ、サザエをとりましようねということで頑張っております。

(知 事)

ちなみに、熊倉さん御自身は江田島の御出身なのですか。

(木 村)

はい。私は先ほど申しましたふるさと市場があるところの、生まれも、育ちも江田島、大柿町の大君でございます。結婚しまして、夫を引っ張り込みまして、地元に住んでおります。

(知 事)

夫の方は江田島の人ではなかった。

(木 村)

栃木県のほうです。

(知 事)

それはすごいですね。

(木 村)

先ほど皆さんがおっしゃいますように、海もあり、山もあり、食べ物もおいしい、住みやすいということで、長いこと住んでおります。

(知 事)

それはまた人口増に貢献していただきまして、ありがとうございます。

女性会も、若い方が減っているというのは、参加率が少ないのか、それともどうしても人口が減っているということで少ないのか、そのあたりはどうかのですか。

(木 村)

やっぱり若い方はお仕事を携っていらっしゃるというのもありますし、女性会に入って何の

メリットがあるのですかと今の若い方はおっしゃいます。やっぱりまず損得を考えてということらしいのですけれども、女性会に入りまして、地域の行事に参加し、そうすることで地域の皆さんの顔も知ることができます。また、江田島市でどんなことをやっているかという情報を得ることもできますので、若い方には入っていただきたいと皆さん思っております。

(知 事)

ありがとうございました。

それでは、細田さん、お願いいたします。

(細 田)

よろしくお願ひいたします。私は能美町の細田と申します。ただいま江田島の大柿町大君、朝、知事に来ていただきましたふるさと市場で出店させていただいております。これは試行的実施としまして、3月からこの9月20日までなのですが、皆さんで出店して、地域活性化のためにたくさんの人に来ていただいて、おいしいものを食べていただいて、ということにさせていただきます。

地図で見ていただいても分かるのですが、大柿町大君は陸の玄関なのです。音戸大橋を渡って、早瀬大橋を渡って、大柿町大君となっております。ですから、呉とか広島の方がたくさんドライブにいらっちゃって、そこで立ち寄っていただいて、おいしいものを食べていただいて、特産物ですとか、郷土の紹介をさせていただければ、もっともっとたくさんの人に知っていただけるのではないかと思います、頑張っているところです。

ですが、悩みがあるのです。始まったのが3月だったのですが、まず寒かったですね。見ていただいても分かったと思うのですが、テントですので、寒くて。そして4月はとても気候がよかったです。5月のゴールデンウィークは最高の人手が、やはり帰省されている方もたくさんいらっしゃいましたので、たくさんの人に来ていただいたのですが、6月、梅雨がまいりました。雨がひどく、テントでは、来ていただいた方にも失礼に当たるのです。土砂降りの中、傘をさして来ていただいて、足元も悪いです。また、台風が来て、風の強いところでは、私たちの営業にも限界が来ておりました。そして、この暑さですね。さすがに7月から8月、9月、しんどい思いをみんな出店者はしています。ですから、施設で、ちゃんとした建物での営業をできれば望みます。

レストランではないですけども、そこでもおいしいものを食べていただいて、さらに、皆様、農業の方、漁業の方が一生懸命つくられております特産物を置かせていただいて、いろいろなものを紹介させていただければと思うのです。ですから、どんどん江田島にたくさん来ていただきたいというのが本当に主なので、ちゃんと建物を構えて、お客様に失礼に当たらないように、施設を構えて、海の駅、道の駅にさせていただきたいと思っています。それが望みです。

(知 事)

ありがとうございました。このふるさと市場自体は、さっきも資料をいただいたのですけれども、皆さん、というか中心になる方がいらっしゃって、補助金も申請をして始められたということですよ。

(細 田)

はい。建設業協会が発足なのですけれども、ボランティアで今 12~13 店舗ですか、出ておりますけれども、頑張っておりますね。

(知 事)

そうですね。今日なんて本当に暑い中、出店者の皆さんも大変だなと。

(細 田)

そうですね。皆さん「暑い、暑い」としか言えないのですけれども、それでもお客様に来ていただいて、「これ、ほしかったんですよ」、「この野菜、安いよね」や「このお魚がほしかったから、来たんですよ」と言われたら、本当にうれしくなってしまうのです。だから、よかったなと思うのですが。

(知 事)

何かモデルになるような道の駅とか、海の駅とか、そういうのはお持ちになっていらっしゃいますか。

(細 田)

モデルですか。以前、テレビで見たことはあるのですが、やはりテントで道の駅を始めて、大きくして施設を構えたところがあったのです。そういうのが夢です。

(知 事)

道の駅もやり方が多々あり、リスクなどの管理上、お店がどうしても一社になってしまうと、そこが扱うものを決めてしまうようになっていたりもするので、今は逆に皆さんが持ち寄る形でやられているということのよさというのもありますし、いろいろな工夫の仕方があると思います。あとは、もちろん建物があるといいだろうという気もしますけれども、僕はテントの良さもあるのではないかという気もします。ただ何がいいのかというのはもちろん分からないので、皆さんでお知恵を出していただいて進められるのが一番だと思います。

(細 田)

今、トイレも仮設トイレなのです。ですから、それはさすがにお客様には失礼に当たりますので。

(知 事)

そこはちょっと厳しいですね。

(細 田)

やっぱりきれいなところで御利用いただければと思いますよね。

(知 事)

そうですね。今、江田島の特産物もいろいろ増えているみたいですから。

(細 田)

そういうのをどんどんアピールして、たくさんの方に江田島を知ってもらいたいので、それが一番の望みですね。

(知 事)

オリーブの栽培や、いろいろなものがありましたよね。是非引き続き頑張っていたいただければ。

(細 田)

よろしく願いいたします。ありがとうございました。

(知 事)

ありがとうございます。

ちょうど時間ですばらしいですね。いつも時間通りいかないのですけれども、すごくぴったりです。皆様御協力いただきましてありがとうございました。

自由討論

(知 事)

それでは一回りいたしましたので、次に全体でディスカッションをさせていただければと思います。私から幾つか質問をさせていただいてもよろしいですか。

一つは、今日、実は私はあまり感じなかったのですけれども、江田島市も合併してできたところですね。この合併について、よかった点、悪かった点というのがあったら教えていただ

ければと思うのですが、どなたかありますでしょうか。

小方さん、いかがですか。

(小 方)

私は住民の大多数の方から、合併して一つもいいことがないというような声を聞くのです。しかし、合併しなかったらどうなるのかということですよ。今の財源の問題にしても、行政的な面から考えたときに、合併しなかったら今よりまだみじめになるのではないかというような気がするわけです。一つ一つとれば、まだある程度財源に余裕がある時期に合併しておりますから、多少お年寄りやら、あるいはいろいろな団体への補助金というようなものが、サービスができていた時代に合併したわけでございます。合併してからそういうものが一切ばさっと切られたものですから、合併して一つもいいことがないというような声を聞くわけです。一つ一つはそうでございますが、合併せずにそのまま続いていたら、それが続けられているかどうかということについては、私はもっと大変な目に遭っているのではないかという気がするわけです。

ですから、ここで合併してよかったか、悪かったかというのを聞かれると、よかったです、悪かったですということは非常に言いづらい。

(知 事)

そうですね。一つによかったとか悪かったとかいうのは難しいですよ。いい点、悪い点と
いうのはいろいろあるのではないかと。

(小 方)

やっぱりこの気候風土、風習も、人情も、一つの島ですから、同じような環境の中で育っている町が一つになって、これからまちづくりをやっていこうという面からいけば、やっぱり一つになっていた方がいいのではないかという気はいたします。

(知 事)

ありがとうございました。交通の問題とか、江田島は島として抱えていらっしゃる部分もあつたりして、それが統一的に考えられるのはいいことだと思いますね。

(小 方)

私も能美町の出身で、能美町の役場に勤めておりました。能美町交通局ということで、現在の交通事業も、全国の公営企業では海上交通は1町だけだったのですが、それでずっと続けて、今も市で続けてやっていただいておりますが、そういう交通の面につきましても、能美町の時代には75歳になったらすべて船賃がただになっていたわけです。合併しましたら、その75

歳という特典はないです。同じように運賃をとられる。ですから、そういう面では合併して一つもいいことがないと、75歳以上の方から聞くわけですが、以後の燃料の価格にしても、利用者の数にしても、同じ状態が続いているなら、同じようなサービスができたかも分かりませんが、今のような利用者が減り、燃料が高騰する中で、それを同じように続けるということになりますと、やはり今、能美町が1町でやっても同じことになっているというような気はいたします。

(知 事)

ありがとうございます。今、合併して何年になるのですか。6年ですね。だんだん一体感という感じはどうか。空久保さんは昔から江田島におられたのですよね。

(空久保)

はい。

(知 事)

だんだんと一体感というのは出てきていますか。

(空久保)

出てきたとは思いますが。でも、沖美町というところは、私は沖地区になるのですけれども、若い人が少ないところなのです。合併して、学校も保育所もなくなってしまって、ちょっと寂しくなったと思います。

(知 事)

身近なサービスが少し減ってしまったという意味では、寂しい思いをすることがあるということですね。

(空久保)

そうですね。

(知 事)

熊倉さん、お願いします。

(熊 倉)

行政の出先機関がなくなったということで、合併当初はとても不便だったのですけれども、そうなりますと、地域のみんなで協力しあって、足りないところはみんなですべて、「行ってあげる

よ」と声かけをしたりして、今はそんなに不自由は感じないと思います。

女性会の中での話を言わせていただきますと、今までの合併前の4町でしたら、町だけの交流だったのが、合併して、他の町の方との交流もできて、大変勉強になったし、楽しくやっておりますという声は聞きます。

(知 事)

ありがとうございます。

ほかにどなたか、もしあれば、田中さん、いかがですか。一言ありますという顔をされていたので。

(田中(正))

よかった、悪かったというより、最初の釣書ですよ。みんなが合併したらええんじやとハードルを上げたから、みんなが財布の中を出さずに。

(知 事)

結婚と同じですよ。

(田中(正))

そうですね。いろいろ合併しておりますけれども、どこも隠して合併するらしいですから、それがよくないのではないかと思いますね。

(知 事)

なるほど。ありがとうございます。おっしゃるように、私、一つの課題だなと思うのは、小方さんがおっしゃったように、合併をしなかったらどうなったかという、相当つらかったと思うのです。小規模の町がそれぞれの人員も抱えて、それぞれの事業をやっていく。教育の分野でもそれぞれ教育委員会があってというのは、大変だろうと思うわけです。例えば小学生が50人しかいないのだけれども、教育委員会を抱えてちゃんとやらなければいけないというのは相当な負担だったと思うのですが、そういうのが統合されて、効率化が図られて、そういう意味で持続可能な行政になっているということがあると思うわけです。しかしどうしてもそういう中で身近なサービスというのが減ってきたりして、それはまさに県でも同じなわけですけれども、台所事情が苦しいという中で致し方なく、合併しようが、しまいが、そういうことは最終的には起きていた。ただ、それを強く感じられてしまうということですよ。せっかく合併して、そういうふうには持続可能になったにもかかわらず、住民の皆さんがそれを十分感じられていないというのがひとつ残念なことで、それを感じていただくにはどうしたらいいかというのを考えないといけないという気はしています。それは個々の市や町の問題というよりは、全

体で、県内でずっと合併は進めてきたものですから、考える必要があるかなというのは感じ始めているところではあります。ありがとうございました。

それでは、次なのですが、今日もそうなのですけれども、たくさん外から江田島に来られていますよね。今日、こうやって来ていただいているということは、それなりに地域が活性化されていたり、目立った存在であったり、魅力的な地域と捉えられているということだと思うわけです。しかし特に地域の中では外から移住してくる人に対してあまり需要が高くないことが多いのですけれども、江田島はそんなことはないという雰囲気ですか。いかがですか。

(清 水)

私は広島市からこちらに移住してきたのですけれども、その当時、まだ合併してなかったのですね。直前だったのですが、地域情報が非常に入りにくかったということがありました。間なしに自治会組織が発足したので入れていただいたのですが、それからは非常に住民とのいろいろな情報が入りやすくなって、住みやすくなってきたということがあります。第一印象としては、やはりいわばよそ者だったわけです。でも、なじんでいくたびに、だんだん親しくなっていくといいますか、今は全くそういう違和感もございませんし、移住者も、私は沖美町におりましたので、沖美町中心に移住者の会というのが発足したのですけれども、今は全域に広がってきております。江田島市全体を見ましたときに、その地域ごとのいいところはたくさんありますので、そこでまたいろいろな人たちとの出会いがある。そして、様々なお話ができてくる。活性化に関する話も出てくるということで、私はそういう面においては、非常に広がってよかったなという気がしております。

(知 事)

なるほどね。移住者の会というのも一つ力になっているということですね。

(清 水)

ですね。やはり受け皿がないと、移住というのは最終的な決断力がものすごく要るのです。えいやっという部分がないと、なかなか思いがあっても決断ができないという部分があります。その決断する要因としては、受け皿がある。仲間がいる。その辺が最後の一押しになるのではないかという気がしています。

(知 事)

なるほど。ありがとうございます。

田中さん、滝田さん、どうですか。比較的最近に来られて。

(田中(鉄))

江田島市全体はまだ知らない状況です。実際来て、今、大須に住んでいるのですけれども、そこからハウスまでの間のことぐらいしか、まだ、ほかを楽しむ余裕も今はないので。近所の農家の人たちに一生懸命技術を教えてもらいながら、今は生活するために必死なのです。清水さんとも交流はあるのですけれども、車で小一時間、船でも15分ほどと、移動するのに時間がかかるので、交流はまだ難しいですね。これから生活の基盤が安定してくれば、島を子どもと一緒に楽しみたいとは思っています。

(知事)

そうですね。でも、近所の農家の方々は非常に期待もされて、一生懸命一緒になってやっていただいているという感じですか。

(田中(鉄))

そうですね。いろいろな方がいらっしゃるの、応援してくださる方もいますし、何しに来たみたいなの感じの方もいますし、こういうお年寄りの多いところで生活するのもなかなか大変ではあります。子どものほうはすぐ孫を見る目でかわいがってもらえるのですが。まだ言葉も、どうしてもお年寄りが多いとなかなか理解できない部分もあるので。

(知事)

また島の広島弁は強いですからね。ときどき怒られているのかと思いますよね。「何しよったんね」とか、「何しよったんや、あんた」とか、心配しよるのに、怒っているのではないかと。

(田中(鉄))

いろいろ技術指導とかもしてもらっているのですけれども、言われたことが分からなくて、教えたことをやっていないと怒られてしまうこともありますね。

(知事)

それは田中さんでも分からない。なるほどね。ありがとうございます。
滝田さん、いかがですか。

(滝田)

私の場合は、清水さんと田中さんとはちょっと違って、妻がこちらの出身でございますから、親戚も大変多くて、そういう意味では非常になじみやすかったというところが一点あります。ただ、いま現在、私は江田島の切串というところに住んでいるのですけれども、切串のほうに

はさすがに親戚がおりませんでしたので、どんなところなのかなと思いながら、実際住んでみると、非常に楽しく住まわせていただいております。隣の人からもしょっちゅういろいろなものをもらったりもします。つい昨日、実は家のほうで外の水道のバルブが飛んだらしくて、水道ががんに出ていたということを隣の方から教えてもらって、おまけにとめていただいて助かりました。そういう隣付き合いもちゃんとできるところでいいなと思って、安心しております。

以前、私はこちらに来る前は岩手のほうにいたのですが、岩手というのは非常に広いところでございますので、私の家でも隣の家まで 50m 以上離れていますので、どっちかというと集落というよりは、1軒1軒が開拓で入ってきた家みたいな感じで、なかなか近所付き合いはできなかつたのですけれども、ここは隣の家とも近くて、人も多くて、私は住みやすく、非常に楽しくさせていただいています。

(知 事)

実は、いろいろなところで定住交流というのをやっていらっしゃって、空き家紹介みたいなものを進められている町もたくさんあるのです。そういう中で私もいろいろなところを訪問して驚いたのですけれども、移住希望の方、つまり、空き家を探している方というのは結構いらっしゃって、ところが、空き家が出てこない。空き家はいっぱいあるのだけれども、空き家は出てこないという課題がありまして、これはなぜかという、やっぱり人に貸したくない、よその人に来てほしくないというのが個々の中にはあるみたいなのです。つまり、総論は賛成なのです。やっぱり人口も減っているし、高齢化も進んでいるので若い人に来てほしい。でも、うちの隣は嫌よ、私の家を貸すのは嫌よというのが個々のケースで見ると多いのかなという印象が私にはありまして、今回は別にそういう空き家に来られているというわけではなくて、恐らく、ああ、空き家ですか。でも、それはよかったですね。何というか、こうやって実際他の地域から来られて、社会の中で活躍されているというのは、いい風土があるのかなと思いました。もう一つ今のお話の中で、清水さんのお話の中でそうだなと思ったのが、そういう移住者同士のネットワークというのは、他ではあまり聞かなかつたのですけれども、ここではしっかりと機能していて、それが一つの受け皿、移住を推進していく上で一定の機能を果たしている様ですので、これは一つ考えてもいいことかなという感じがしましたね。

やっぱり田舎に住みたいという希望を持っている方は意外と多いみたいですね。それぞれ山に住みたい人もいれば、海に近いところに住みたい人もいれば、自転車の乗れるところに住みたい人もいれば、いろいろだと思うのですけれども、特徴は前面に押し出しながら、新しい人に入ってきてもらうというのは活力につながっていきますから、それがうまく回ればいいなと我々も考えているところであります。

あと 10 分ほどあるのですけれども、せっかくなので、何か私に聞いてみたいとか、あるいは、これをもうちょっと言いたいというのがあったらお願いしたいと思いますが、いかがです

か。木村さん。

(木 村)

緊張してさっき言い忘れていたのですが、江田島市から学校へ行くときに、フェリーがあるので、通学でフェリーと電車を利用するのですけれども、フェリーの時間とあわないときがあるので、とても不便なのです。それで、どちらか片方にでも時刻をあわせられるようにしていくと、改善されていくのではないかと思います。

(知 事)

あの待ち時間というのは不便ですよ。何分ぐらい、空いたりするのですか。

(木 村)

昼、たまに試験があって早く帰るときがあるのですけれども、船で12時50分の高速フェリーを逃したら、1時50分まで待たないといけないときがあって。

(知 事)

フェリーは、1時間に1本。

(木 村)

そういうのが不便なので、そこら辺を改善していけたらもっといいなと思います。

(知 事)

なかなかフェリーの本数を増やすというのは大変だと思うのですが、その間に試験勉強をしてもらって。これはなかなか大きな課題もかもしれないですね。もちろん、全部接続していたら、皆さんに便利なのだけれども、なかなかそううまくいかないということもあるので、時間の有効活用というのを考えるのがいいかもしれないですね。

(木 村)

訓練します。

(知 事)

ありがとうございます。

他はいかがでしょうか。清水さん、お願いします。

(清 水)

今、知事が提唱しておられる海の道構想、これに関する事なのですが、私どもが今つくっている夢来来というところから宮島がすぐ目の前に見えるのですけれども、宮島もいわゆる厳島神社がある本土側の向きのほうは、もちろん完備して、発達しているのですが、本当の瀬戸内のよさというのは、逆に裏の宮島も非常にすばらしい景観もあるし、この辺のがんねとか、江田島、沖美町是長から、このあたりも非常にすばらしいところがたくさんあるのです。だから、瀬戸内のすばらしさ、特にこのあたりのすばらしさをもっと、海上のクルージング等も含めて、もっともっとアピールすることによって、宮島のよさも非常によくなるのではないかと考えているのです。今のクルージングも、自由度のあるクルージングもつくっていけば、江田島にももっとたくさんの方が来て、交流も始まるでしょうし、私たちの願いである定住も膨らんでくるのかなと。それにまつわるいろいろな産業も活発になってくるというふうな考え方を持っているのです。その辺の裏から見た瀬戸内海、宮島の裏側、この辺ももっともっとPRしていただくと、私たちも非常にうれしかないと考えているのです。その辺の考え方をちょっとお聞かせいただきたい。

(知 事)

分かりました。ありがとうございます。今度宮島の展望台を建て替えることにいたしましたので、あそこから宮島の裏がと言いますか、江田島がよく見えますよね。そういうふうに宮島の裏側もPRしていこうと考えています。今のクルージングというのは、我々もこれから活発にしていきたいと考えているのですけれども、そこに至るには、これは私の個人的な考えなのですけれども、幾つかステップが恐らくあるだろうと。そのステップというのは、いきなり船を出したらお客さんが来るかという、そういうわけではないので、まず全体として、今あるものに近い形でお客さんを増やしていくということが大事だと思いますね。つまり、例を挙げるなら、陣地を増やすような感じですよ。今ここに陣地を持っていたら、それをもうちょっと増やしていく。大きくしていく。たくさんお客さんが来ると、これがまたいろいろなものを求め始めるので、これまで行けなかったところにも行ってみよう、ないしは、そういうところに船で出てみたいという要望を持つ人は一定程度出てくるので、そうすると、自由度の高い観光が成り立っていく。そうすると、今度はそういう普段ではない体験をした人がまた口コミとかを含めて、表の宮島もいいけど、裏の宮島もえかったでと、外の人ですから広島弁は使わないのですけれども、そう宣伝をしてくれるので、そうすると、こっちの需要もまた増えていくのではないかと思います。急に全部を拡大していくと、お金ばかりが非常にかかって大変なので、そうしていければと。

広げていく一つの起爆剤みたいな、仕掛けみたいなのが、例えばそれこそサイクリング、クルージングでも、最初はまずメインのところだと思うのです。鞆から尾道に行って、生口島に行って、呉とか、江田島、広島と、こういうメインのルート、宮島も含めてですけれども、そ

ういうところからまず始まっていく。それで、だんだんお客さんが増えてくると、そこに満足しない人が出てくると、どんどん広げていきたいと思っています。ありがとうございます。

ほかはどなたかいかがでしょうか。どなたかありますか。内藤さん。

(内 藤)

今日、江田島を見られて分かると思うのですがけれども、基本的に、住んでいる人の仕事というのは一次産業なのです。現実問題として、一次産業が今どっちかといえば危機的な状況、まず後継者がなかなか育っていない。所得もあまり良くはない。個人の努力もあるでしょうけれども、いかに人口を増やそうとしても、生活できるレベルの所得がないと続けることができないです。

(知 事)

それはそのとおりですね。

(内 藤)

僕らも個々で農業製品とか海産物とかを少しでも高く売するような努力は惜しまずに頑張っているつもりなのですが、とにかく今知事をお願いできるのは、ことあるごとに広島県の産品をいい意味で宣伝してほしい。トップセールスがあれば、僕らも宣伝はしたいのですが、宣伝というのは結構お金がかかります。なるべくお金を使わずに宣伝するために、努力はしているのですが、知事にもっともっとやってもらいたいなというふうに思っておりますので、今後ともよろしく願いいたします。

(知 事)

分かりました。ありがとうございます。おっしゃるとおりで、所得がないと住み続けられないというのは、厳然たる事実だと思うのです。これはもちろん江田島だけの課題ではなくて、中山間地域全体の課題なのですが、そのために今、県のほうでも農林水産業活性化計画というのを立てて、いかに農林漁業で自立した事業ができるようになるか。そこにもっていくか。というのを進めようとしております。先ほど人口が増えるのはいいと申し上げましたけれども、もちろんやたらに増えればいいということではなくて、いずれにしても広島県の人口というのはこれから大きく減ってしまう、そういう中での話ですから、住んでいる人がしっかりと所得を持って活動し続けることができるということが一番大事なことだと思います。

そういう意味では、農業でも、空久保さんのところもイチゴをつくられて、江田島だけではなくて東城でもやられるということも含めて、規模拡大を図って、収入を確保されて、江田島に住み続けられるのですよね。きっとね。あまり押しつけてはいけません。そういう努力が大事だと思いますので、カキについても、今、いろいろな努力をされていますよね。

この「ひとつぶくん」や「カキ小町」もその一つですし、ある業者さんは乾燥カキを中国に販売するというので、季節を問わない需要をつくっていくという努力をされているところもありますし、乾燥カキとは違う干しカキみたいなものをつくっておられるところもあります。そういういろいろな広い市場、大きな市場を見据えた収入の拡大を図っていくということはどうしてもやらないといけない。もちろんそれをやるために、私は先頭に立ってPRもしていきたいと思っておりますので、そこは御安心いただければと思います。私も汗かいて頑張ります。

閉 会

(知 事)

それでは、ちょうど時間になりましたので、ここで終了とさせていただきたいと思います。

最後に一言だけ御挨拶をさせていただきたいのですが、今日、こうして長い時間、皆様に貴重な御意見をいただきまして本当にありがとうございました。まだ言い残したこともあるかもしれませんが、また後からおっしゃっていただいても結構です。冒頭申し上げたように、こうして直接お話をさせていただく機会というのが実は意外と少なく、県というのは直接は市とか町の行政の方とやりとりをすることがどうしても多いのですけれども、こうやってお話を聞けるのは我々にとっては非常に貴重な機会でありまして、そこにこうやって長い時間、お休みにもかかわらず御協力をいただいたことは本当に感謝しております。ありがとうございました。

それから、傍聴の皆様も、長時間に渡ってお付き合いいただきまして、本当にありがとうございました。やりとりしている我々はいろいろあるのですけれども、ずっと聞いておられるのは、長い時間大変だったと思います。本当にありがとうございました。

引き続きいい県政をつくるために頑張って参りたいと思いますので、引き続きよろしく願いいたします。本日は本当にありがとうございました。